



「追手門学院大学附属図書館

『宮本輝ミュージアム』

2008年、学校法人追手門学院は創立120周年を迎えます。

『宮本輝ミュージアム』は、その記念事業の一環として、追手門学院大学附属図書館の改修と同時に併設いたしました。

広く一般の方へも公開いたしますこのミュージアムは、本学文学部第1期卒業生であり、作家として活躍されている宮本輝氏の愛用品、直筆原稿など、数多くの資料を展示し、宮本輝氏の著作等を通して、図書館を利用される学生及び市民の方々に感動と共感の場を提供できることを願って開設いたしました。そして宮本輝氏のご活躍とともに成長し続けるミュージアムでありたいと願っています。

『宮本輝ミュージアム』をとおして、追手門学院大学が皆様にとって、より身近な存在となりました幸いです。

2005年5月21日

『宮本輝ミュージアム』展示品リスト

【東側】

◎年譜

◎自筆の詩（ガラス板）

《年譜下ガラスケース》

- 広辞苑 ●インクと万年筆 ●直筆原稿（複製）「生きものたちの部屋（3）『インクと万年筆』
- 湯のみ ●懐中時計（芥川賞正賞） ●グラス ●小物入れのかご ●水差し ●墨、筆
- 硯 ●自筆の書「正直であるということの凄さ」（複製）

○追手門学院大学第一期生卒業記念アルバム（在学中の写真）・第二期生卒業記念アルバム（茨木学舎全景）

○追手門学院大学三十年史 「創立三十周年を祝して（宮本輝）」

○読売新聞記事 昭和57年（1982）7月26日（月）夕刊 1面・3面 パネル

【西側】

■ 宮本輝ミュージアム開設記念「セレモニー&講演会」開催時写真

■ 産経新聞記事 平成17年5月31日（火）4面（複製）

■ 「文学館への旅 宮本輝ミュージアム」毎日新聞 日曜版 平成18年2月5日、12日、19日、26日（複製）

【北側】

① 作家活動のはじまり

1977年デビュー作「泥の河」と「螢川」を相次いで『文芸展望』に発表。「泥の河」で第13回太宰治賞、「螢川」で第78回芥川龍之介賞を受賞した。この2作は1978年に発表された「道頓堀川」とともに「川三部作」として著者の代表作となった。『螢川』『道頓堀川』『川三部作 泥の河 螢川 道頓堀川』『幻の光』『星々の悲しみ』

② 初期の作品

芥川賞受賞後、肺結核を発病し、約2年間の療養を余儀なくされた。復帰後、旺盛な創作活動が開始される。

『ドナウの旅人（上・下）』 『錦織』と冒頭部分原稿（複製）

③ 初めての海外取材

1982年「ドナウの旅人」執筆取材のため、ドナウ川流域を訪問。以後、毎年のようにヨーロッパ諸国等へ取材旅行。

『異国の窓から』

④ 映画化された代表作

1982年「泥の河」が小栗康平監督によって映画化され、モスクワ国際映画賞銀賞ほかを受賞した。

以後、多くの作品が映画化、ドラマ化されている。

「優駿」競走馬の世界を描いた作品で、日本中央競馬会から第一回馬事文化賞を受賞。

1987年に吉川英治文学賞を受賞し、1988年映画化された。

『優駿（上・下）』 映画『優駿』DVDと映画パンフレット 映画『幻の光』 ビデオ

⑤ 海外を舞台にした作品

『愉楽の園』 タイを舞台にした作品。著者が最初に書いた小説「弾道」が作品の原型となっている。

⑥ 青春時代を描いた作品

『青が散る』と連載第1回冒頭部分原稿（複製）

新設大学に入学した椎名遼平はテニスコートのないテニス部に所属する。遼平の恋や友情、青春をテニスとともに描いた作品。

『春の夢』『二十歳の火影』

⑦ “父と子”を描くライフワーク『流転の海』

敗戦後の昭和22年、50歳で長男を得た松坂熊吾の半生を描く大河小説。1982年著者35歳の年に、全5部の予定で執筆が開始された。2004年『新潮』6月号より第5部「花の回廊」の連載開始。

連載第1回冒頭部分原稿（複製）と『流転の海 第一部』（福武書店）

第1部『流転の海』 第2部『地の星』 第3部『血脈の火』 第4部『天の夜曲』（新潮社）

⑧ 青春と読書

13歳の日、井上靖著『あすなる物語』を読んで以後、読書に耽溺した。本や小説は、波間にただよう小舟のような、14歳から18歳までのよるべない時代の支えのような存在であったらう。

『本をつんだ小舟』思い出の作品と読書体験を記した作品。宮本輝編集のアンソロジー集

⑨ 『川三部作』筑摩書房 1985年刊。限定200部中の第187番

⑩作家 宮本輝を知る本 『新潮四月臨時増刊 宮本輝』新潮社 1999年4月刊

⑪ 「優駿」連載第1回冒頭部分原稿（複製）

⑫ 海外に翻訳された作品

1986年の『泥の河』中国語版発行以後、中国語、フランス語、英語、ハングル語、ロシア語などへの翻訳書が多数刊行されている。『彗星物語（上・下）』（原書 角川書店1992年刊）とハングル語版（Koreaone Press1993年刊）訳者は金賢姫

⑬ 恋愛をテーマにした作品 『私たちが好きだったこと』

⑭「ドナウの旅人」以降の新聞連載（１）

『花の降る午後』角川書店 1988年刊（1985年7月～1986年2月『新潟日報』等に連載）

『海岸列車（上・下）』毎日新聞社 1989年刊（1988年1月～1989年2月『毎日新聞』連載）

『ここに地終わり海始まる』講談社 1991年刊（1990年3月～11月『福島民友』等に連載）

⑮「ドナウの旅人」以降の新聞連載（２）

『朝の歎び（上・下）』講談社1994年刊（1992年9月～1993年10月『日本経済新聞』連載）

『人間の幸福』幻冬舎 1995年刊（1994年5月～1995年1月、『産経新聞』連載）

『草原の椅子（上・下）』毎日新聞社1999年刊（1997年12月～1998年12月『毎日新聞』連載）

『約束の冬（上・下）』改訂版文藝春秋2004年刊（初版2003年刊）（2000年10月～2001年10月『産経新聞』連載）

⑯阪神淡路大震災後の作品

作家自身もこの大震災によって被災した。震災の渦中、日々増大していく被害は、連載終盤を迎えていた『人間の幸福』最終章にも影響を与えた。

『森のなかの海（上・下）』震災当日の朝から始まる物語

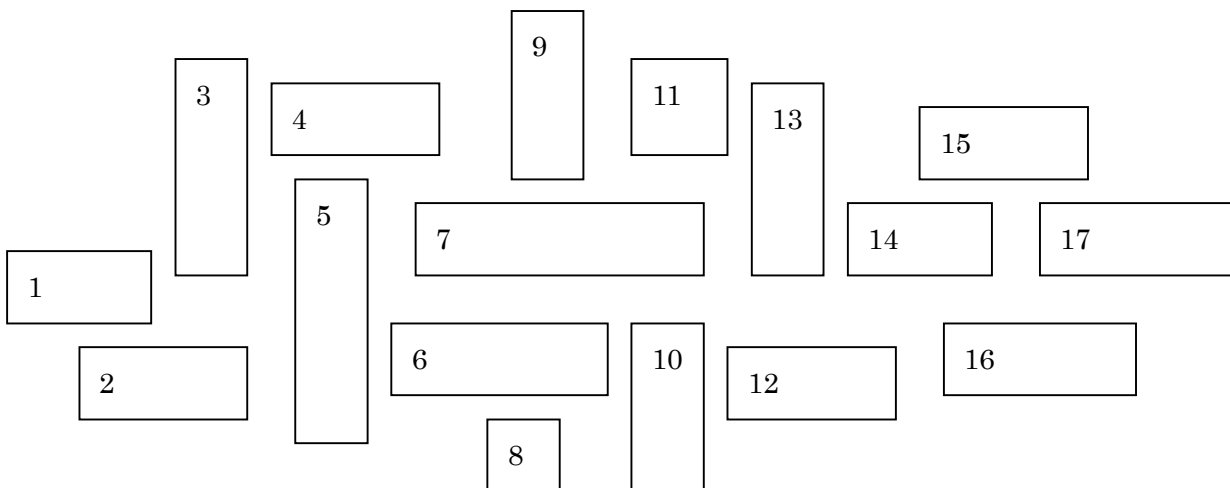
⑰シルクロードへの旅

1995年5月、約1700年前に膨大な經典の漢語訳をなした鳩摩羅什^{ク マラジュウ}の足跡を辿る40日間にわたるシルクロードの旅に出た。

『ひとたびはポプラに臥す』旅の紀行文集

『星宿海への道』『胸の香り』シルクロードの旅に題材をとった短編「道に舞う」を収録。

北側展示架番号 ※上記番号は展示架の番号です



【渡り廊下】特別展示

■ 『青が散る』とおもいでの旅

直筆原稿（複製）・写真・スーツケース・関連記事など

特別展示『泥の河』展 展示品リスト（展示期間 2006年5月22日～2006年6月30日）

【展示ケース内】

<宮本輝作品「泥の河」>

- 同人誌『わが仲間』第9号（昭和52年<1977年>1月1日発行 掲載作品「舟の家」
- 『文芸展望』第18号（1977年7月 筑摩書房） 第13回太宰治文学賞受賞作「泥の河」選評部分等
- 『蜚川；泥の河』 新潮文庫 1994年刊
- 『泥の河；蜚川；道頓堀川：川三部作』 ちくま文庫 1986年刊
- 『現代小説101篇の読み方』国文学編集部編 学燈社 1993年刊「泥の河」の読み方 二瓶浩明氏執筆

<小栗康平監督 映画『泥の河』1981年公開>

- 劇場用パンフレット ● シナリオ 決定稿 ● 海外映画祭プレス用パンフレット
- 海外上映用チラシ ● 「泥の河」スチール写真とシナリオ 3場面
- 『キネマ旬報』1981年5月上旬号 No.810 ● 『映画を見る眼』小栗康平著 NHK出版 2005年刊
- 『見ること、在ること』小栗康平著 平凡社 1996年刊
- 『哀切と痛切』小栗康平著 径書房 1987年刊 ● 小栗康平監督作品集（DVD-BOX）全5巻
- 2006年度本学入学生へ校友会から寄贈された文庫本『青が散る』（新入生へのメッセージ入り帯、落款入り）

<パネル展示>

- 小栗康平氏と「泥の河」の紹介 ● 小栗康平氏監督作品紹介
- 映画「泥の河」シナリオ
- 映画スチール写真 ①天神祭りへ出かけるシーン ②信雄が銀子に足を洗ってもらうシーン
③信雄が喜一の船を追いかけるラストシーン
- 「太宰治賞」歴代授賞作品

<写真>

- 商都大阪（昭和30年） ● 御堂筋全景（昭和30年） ● 安治川の風景（昭和46年）
- 一本松家（昭和30年頃） ● 川口町の木材市場（昭和32年）
- 大阪の風景－昭和30年代－（昭和28年～32年）※写真・地図 計8点
- 安治川（一本松汽船）（昭和31年～）※写真・地図 計7点
- 「泥の河」の大阪へとさかのぼるシリーズ
①大阪駅北口（昭和33年） ②中之島周辺（昭和33年）
③中之島公園の夜景（昭和31年） ④安治川で船住まい（昭和30年）
⑤土佐堀川、木材いかだが通る（昭和27年） ⑥川口町の木材市場（昭和32年）

資料提供でご協力いただいた方々 心より感謝いたします。

特別展示「泥の河」展開催にあたり、次の方々のご協力をいただきました。

資料をご寄贈いただいた方々（敬称略）	
小栗 康平	映画「泥の河」パンフレット
	映画「泥の河」シナリオ
	映画「泥の河」海外映画祭プレス配布用資料
	映画「泥の河」スチール写真10枚
	著書『哀切と痛切』（平凡社）
	著書『見ること、在ること』（平凡社）
その他ご協力いただいた方々（敬称略）	
郷土出版社	
毎日新聞社	
読売新聞大阪本社	
一本松 伸	

次の方々にもご協力いただきました。

資料をご寄贈いただいた方々（敬称略）	
坂上 楠生	読売新聞連載小説 宮本輝氏・作 「にぎやかな天地」 （2004.4～2005.7）の挿絵10点
北日本新聞社	2006年1月1日朝刊、1月6日朝刊、1月28日夕刊、2月2日朝刊
株式会社 文藝春秋	『約束の冬』上・下（文春文庫）

大阪府茨木市西安威 2-1-5

追手門学院大学附属図書館『宮本輝ミュージアム』
2005年5月21日発行 2006年5月26日（第3版）